

令和6年度 9月卒業式 学長告辞

9月になっても真夏日が続いた夏もようやく終わり、秋めいてきました。キャンパスの様々な木の実も落ち始め、もうしばらくすると木々の葉も色付き、鮮やかな景色に変わっていくことでしょう。

卒業を迎えられた皆さん、おめでとうございます。

また、今日まで皆さんを支えてこられたご家族や指導に関わられた皆様も喜んでいらっしゃると思います。心からお祝いを申し上げます。

本日は、教員養成課程五名に学士の称号が授与されることになりました。

皆さんの新たな旅立ちにあたり、愛知教育大学を代表して、祝福の言葉を述べさせていただきます。

皆さんが本学で学んだ期間、特に前半は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の波が何度も押し寄せ、思うような大学生活が送れなかったことと思います。2020年度入学の4名の皆さんは、入学式すら行うことができませんでした。私は学長に就任した年度で、この先どうなるのだろうと不安を感じながらの毎日でした。きっと皆さんも同様であったのではと推察します。そのような状況でしたので、単位の取得にも苦労があったことと思います。ようやくこの1年半は、通常に近い大学生活が送れるようになり、それぞれに残された課題に取り組んだことと推察します。

さて、脚本家のジェームズ・三木氏は、その著書のエッセイ集の中で次のように述べています。

「1本の糸のような、自分だけの持ち時間を、どんな色に染めるのか、どんなデザインをするのか、どんな結び目を作るのか。そうしたビジョンやポリシーを、どこかで意識している人には人生がある」と。

皆さんと一緒に入学した多くの人は、既に社会に出ている訳です。少し違った大学生活を送ったことと思います。通常とは違う「卒業」という人生の結び目を付けた訳です。ぜひ、このことをプラスと考え、活かしてほしいと思います。明日からの未来に向けて、自分らしく、自分ならではの人生を切り拓いてください。私たちは応援しています。

さて本学は、昨年創基150周年を迎えました。1873年に名古屋市に開設された「愛知県養成学校」が本学の前身です。大学となってからも75年目を迎えています。この間、約7万人もの教員を輩出し、愛知県を中心として教育の屋台骨を支えてきました。今後も日本の教員養成の中核大学としての役割を果たしていきたいと思います。その一つに、私が学長に

就任して、キャッチフレーズとして「子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学」を掲げ、令和3年3月に策定した本学の中長期ビジョン「未来共創プラン」があります。現在、実行に移しているところです。卒業後、それぞれの立場で協力いただきたいと思います。

最後に、本学での学びを礎に、健康に留意され、大きく羽ばたかれることを祈念いたしまして、卒業・修了にあたっての告辞といたします。

令和6年9月30日

愛知教育大学
学長 野田 敦 敬